

土木学会四国支部「土木紀行」NO. 81 (愛媛県)

～道後温泉本館～



道後温泉本館

道後温泉は3000年もの歴史を誇り、日本最古の湯として知られています。道後温泉本館は、1894年(明治27年)に坂本又八郎により設計、施工された木造3階建ての入浴施設であり、数度の増改築を繰り返しながらも建築当時の姿を留めています。塔屋には赤いガラスが印象的な太鼓楼「振鷲閣」を備え、日本で唯一の皇室専用浴室である「又新殿」など、いくつかの建物が複雑に連結されています。平成6年(1994年)には、意匠的に優秀なもの、歴史的価値の高いものとして、大衆浴場としては初めて国の重要文化財にも指定されており、平成21年(2009年)にはフランスで発行された日本の観光地を紹介するガイドブックで、最高ランクの「三ツ星」と評価を受けるほどに、広く国内外から認められています。



道後温泉本館北側



本館の全容(右手緑色の屋根が又新殿)

「振鷲閣」について

下図に示す神の湯の塔屋にあたる部分が振鷲閣であり、その障子窓には和紙ではなく当時まだ珍しかった赤いギヤマン(ガラス材)が用いられています。振鷲閣の中には太鼓(たいこ)が下がり下げられていて、1日に3回(朝6時、正午、夕方6時)打ち鳴らされ、「刻太鼓」

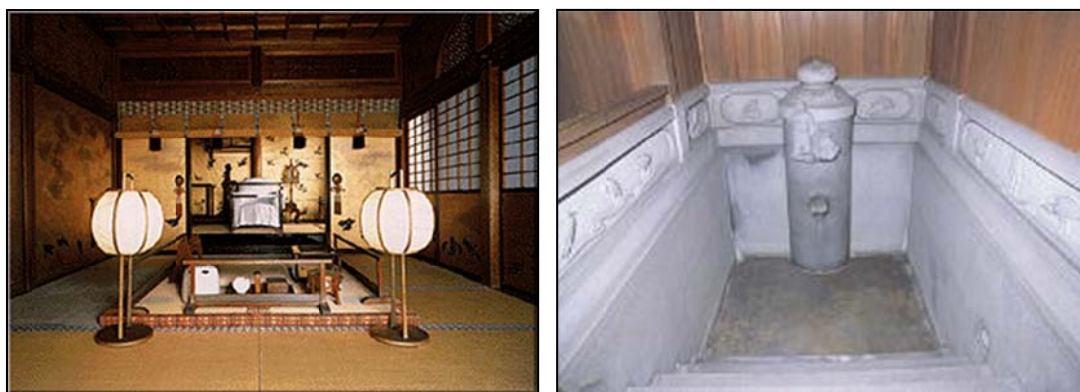
と呼ばれています。この刻太鼓は本館ができた明治27年当初から続いていて、平成8年7月1日に、当時の環境庁の残したい「日本の音風景100選」に選ばれています。



振鷲閣

「又新殿」について

明治32年に完成した又新殿は、皇室の方が道後へ来られた時のために造られました。前室、御居間、玉座の間から成り、隅々まで優雅な造りとなっています。浴槽は1階にあり、御影石の中でも最上とされる香川県産の庵治石^{あじいし}でできています。現在は観覧コースがあり利用料金を払えば観覧することができます。



御居間と玉座の間

又新殿の湯釜

道後温泉本館周辺には国指定の重要文化財「伊佐爾波神社」や、俳句や短歌など短詩系文学で有名な正岡子規を顕彰する「子規記念博物館」等もあります。入浴だけでなく歴史探訪の散策もできる「道後温泉」にぜひ来てみてはいかがでしょうか。

(愛媛大学 理工学研究科 生産環境工学科 修士1年 安東 良)

参考文献： 松山市ホームページ <http://www.city.matsuyama.ehime.jp>

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>